

I am indebted to Mr. S. Ogasawara for his kindness in providing me the specimens in fresh conditions.

Literature cited

- Ogasawara, S. 1971. Notes on central Japanese Hepaticae (3). Journ. Geobot. 19: 40-41 (in Japanese with English summary). Schofield, W.B. 1966. Bryophytes of British Columbia, II. Hepaticae of particular interest. Journ. Hattori Bot. Lab. 31: 265-282. Schuster, R.M. 1966. Studies on Hepaticae, XV. Calobryales. Nova Hedwigia 13: 1-63, figs. 1-12. Udar, R. and S. Chandra, 1964-5. A new species of *Calobryum* Nees, *C. indicum* Udar et Chandra, from Darjeeling, eastern Himalaya, India. Rev. Bryol. et Lichen. 33: 555-559. Worley, I. A. 1969. *Haplomitrium hookeri* from western North America. Bryologist 72: 225-232.

* * * *

昨夏、愛知県の小笠原昇一氏が富山県立山でコマチゴケ (*Haplomitrium*) の一種を採集され、従来日本から知られていた *H. rotundifolium* と異なり、*H. hookeri* らしきとして報告された。今夏、同氏は再び立山に登られて、生品を多量に採集し筆者に研究するように送付された。立山のもはヨーロッパや北アメリカで知られていたものと多少形態的な変異がみられるが、*H. hookeri* (Smith) Nees と同定できる。立山産のものすべてで、胞子体はみられなかったが、ヨーロッパやアラスカ〜ブリチッシュ・コロンビアの高山帯のものによく胞子体をつけるそうである。

立山や黒部溪谷をはさんだ白馬一帯は今回の *Haplomitrium hookeri* はじめ、*Takakia*, *Pseudolepieolea andoi* など、隔離分布のいちじるしいものがいくつか知られていて、植物地理学上重要な地域である。

□カザンデマリ ヒマラヤ山麓の荒地によくみかける *Pyracantha crenulata* (D. Don) Roemer は、昭和の初期から日本に入っていたがあまり広がらなかった。しかし、生垣でよくみかけるホソバトキワサンザシより丈夫で美しいので、最近再認識されて、あちこちでみかけるようになった。私の家の生垣も今紅い実が盛りである。広まるにつれヒマラヤビラカンサ (新花卉, 1957) とか、インドトキワサンザシ (日本の花木, 1971) とか、色々名がつけられるのは困ったことである。ヒマラヤ地方をインドと呼ぶわけにいかないから、後者の名は不適當である。華山手毬で、中国、陝西省の華山から輸入したというのでこの名があるが、華山にも分布するかどうかは検討の余地がある。

(山崎 敬)